

日本の美

音楽堂

邦楽と舞踊の会

令和8年

12月6日(日)

14時開演(13時15分開場)

石川県立音楽堂 邦楽ホール

13時30分プレトーク

村上 湛(音楽堂邦楽主幹)

箏曲「小督曲」

山勢 松韻(人間国宝) ほか

長唄「時雨西行」

藤間 勘十郎

藤間 勘寿々

長唄／杵屋 喜三郎 ほか
三味線／稀音家 祐介 ほか

地唄「虫の音」

井上 八千代(人間国宝)

地方・囃子／祇園甲部連中

長唄「綱館」

花柳 寿楽

花柳 基

長唄／杵屋 喜三郎 ほか
三味線／稀音家 祐介 ほか

囃子／藤舎呂英社中

主催：(公財)石川県音楽文化振興事業団 後援：北國新聞社

全席指定 | S席 8,000円 A席 7,000円 B席 3,000円
9/6(日)10:00 一般発売開始 邦友会・OEK定期会員10%割引(B席以外)
邦友会会員先行発売 8/30(日)10:00～

WEBからの
購入もできます



18歳以下S席無料(同伴者半額)
劇場キャンペーン
詳細・申込はこちらより



チケット・お問合せ/音楽堂チケットボックス 電話076-232-8632 窓口9:00～19:00 電話10:00～18:00 [チケットぴあ(544-987) ローチケ(52788) セブンチケット(117-332) teket]

託児ルーム(有料)あります。ご利用の方は11/26(金)17時までに
音楽堂事務局(tel.076-232-8111)にお申し込みください。

文化庁文化芸術振興費補助金 劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂機能強化総合支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会



邦楽と舞踊の会

身体所作、邦楽の響き、そして舞台を彩るさまざまな意匠。そのすべてが一つとなって生み出される美の結晶、それが日本の伝統芸能です。

今年も、当代を代表する立方と演奏家が一堂に会し、選ばれた珠玉の演目をお届けします。一流の芸が響き合い、織りなす至高の舞台。時を超えて受け継がれてきた美の精髓に出逢う至福のひとつときを、どうぞ堪能ください。

石川県立音楽堂 邦楽主幹 村上 湛

二世花柳壽楽 振付

つな やかた

長唄「綱館」

伯母真柴

花柳 寿楽

実は茨木童子

花柳 基

長唄／杵屋 喜三郎 ほか
三味線／稀音家 祐介 ほか

地唄「虫の音」

立方 井上 八千代（人間国宝）

地方・囃子／祇園甲部連中

江戸時代中期に名古屋で活躍した盲人演奏家・藤尾勾当は能に取材した地歌（三味線歌曲）の名曲を幾つか残しました。金春禪竹の能（松虫）末尾の詞章を採った名曲が（虫の音）。親しい友の亡きあと、秋の野に鳴く松虫の声に故人を偲ぶ、含蓄深い曲趣です。

祇園町の舞妓・芸妓に限って伝習される、日本舞踊の中でも極めて特異な流派・井上流は、能の技法に基づく厳格な様式性に特長があります。地歌の原曲をそのまま活かした京舞（虫の音）は、三世井上八千代まで伝わっていた古い振りを四世（一九〇五〜二〇〇四年）が改作し、和服着流しの素の姿で深い味わいを見せる傑作に昇華させました。名人・四世の孫として衣鉢を継ぐ当代五世八千代が、祇園甲部芸妓連中の演奏により名作の骨法を示します。



山勢 松韻
YAMASE SHOIN

山田流箏曲

「小督曲」

箏 山勢 松韻（人間国宝）

箏／奥山 益勢

三絃／山勢 麻衣子

笛／福原 徹

雅楽楽器の箏（十三絃の琴）に手が増えられ、江戸時代初期に民間楽器として盛んに演奏されるようになったのが現代の「おこと」の始原です。作曲も演奏も当初は上方（京・大坂）が中心でしたが、美声で人気を博した名人・山田検校（一七五七〜一八一七年）によって初めて「江戸の箏曲」が生み出されます。金春禪竹の能小督に基づく大曲（小督曲）はその代表作です。

平安時代末期。高倉天皇に愛された美女・小督は、平清盛によって宮廷を追われ嵯峨野に遠ざけられますが、帝は近臣・源仲国を派遣して変わらぬ思いを伝えます。

当代山勢松韻は、文化勲章受章・日本芸術院会員・人間国宝。伝統芸能界の頂点に立つ唯一無二の名手の名技をご堪能下さい。



藤間 勘寿々
FUJIMA KANSUZU



藤間 勘十郎
FUJIMA KANJURO

長唄「時雨西行」

西行法師 藤間 勘十郎

江口の君 藤間 勘寿々

長唄／杵屋 喜三郎 ほか
三味線／稀音家 祐介 ほか

世阿弥の能（江口）に基づく長唄（時雨西行）は鑑賞用の「お座敷長唄」として制作された名曲です。元治元年（一八六四年）初演。作詞・河竹其水（後の黙阿弥）。作曲・二世杵屋勝三郎。

摂津国・江口の里の遊女の家に雨宿りを願った西行法師は断られますが、遊女・江口の君は、実は普賢菩薩の化身でした。この世の無常のさまを語り舞い、光り輝く仏体となって西方極楽浄土に消え去ります。

名曲ゆえに後に振付が施され、舞踊会でしばしば出されます。戦後最高の名優・六世中村歌右衛門の江口の君、二世藤間勘祖（六世勘十郎・一九〇〇〜九〇年）の西行法師による名演が伝説となっており、本日は二世勘十郎の愛孫・当代勘十郎の胸を借り、藤間宗家の門弟で金沢在住の三代目藤間勘寿々が、ともに初役で勤めます。



井上 八千代
INOUE YACHIYO



花柳 基
HANAYAGI MOTOI

撮影 田中聖太郎



花柳 寿楽
HANAYAGI JURAKU

撮影 篠山紀信

都・羅生門の鬼の片腕を切り勇名を馳せた渡辺綱は、陰陽師・安倍晴明の占いによって祟りを避けるべく七日間の物忌を続けます。その最終日に訪れた、摂津国・茨木に住む伯母・真柴は、実は鬼が化けたニセモノでした……。

今回の（綱館）の振付は名匠・二世花柳壽楽（一九一八〜二〇〇七年）。その薫陶を受けた当代花柳寿楽と花柳基が、名曲に挑みます。



石川県立音楽堂

https://www.ongakudo.jp 電話076-232-8111 休館日 9/14 10/19 11/16
〒920-0856石川県金沢市昭和町20-1 JR金沢駅兼六園口（東口）徒歩1分

